

漢字で学習することの重要性はよく理解しているつもりだが、漢字かな混り文に慣れた場合、小学校に進んで、かなばかりの文に接して子供が困るのではないか。

よくこういう質問を受けます。確かにこんな心配がありそうに思われよすが、実は全く心配ありません。逆に、かなばかりの文に接して、一番よく読めるのが漢字を多く知っている子供なのです。

かなは、音を表わすだけで意味を持っていません。だから、かなしか知らない一年生は、一字一字声を出して読めば、それで読んだつもりになり、なかなか意味までは追求しません。これが、算数で文章問題が出来ない理由です。

ところが、漢字で学習する習慣のある子供は、意味を汲み取る習慣がついていますから、例えば、“はな”とあれば、「これは“花”かな、それとも“鼻”かな」と考えます。決して、普通の一年生のように、音読するだけでは満足せず、必ず意味を追求します。

だから、算数の文章問題をさせてみれば、よく出来るので、そのことがよくわかります。一般に「文章問題の出来が悪い」と言われていま

すが、それは漢字かな混り文に慣れた子供には当てはまりません。

私たちも、かなばかりの電報文が読みにくいように、一年生だって勿論読みにくいわけです。しかし、私たちはそのかなを漢字に置き換えて読み、それで意味を汲み取っています。漢字の置き換えが出来ない時、「はてな」と頭をひねります。

小学校に進む前に、漢字を一字でも多く学習し、漢字かな混り文に慣れさせていれば、頭の中でかなを漢字に置き換えながら読む子になります。そうすれば、かなばかりの文でも意味を考えながら読む子になり、算数で、文章問題がよく解ける子供になります。これは、私の長年の実験によって確かめたことですから御安心下さい。